

令和6年度 第3回 高石市行政計画審議会 議事録

【開催日時】 令和6年12月19日（木） 午後3時から開催

【開催場所】 高石市役所 別館3階 多目的ホール

【出席委員】 委員5名中5名の委員が出席し開催した。

日野 泰雄 西村 陽子 寺島 誠

谷本 順一 谷田 公宏

(以上委員5名)

【欠席委員】 なし

【傍聴者】 なし

【日 程】 (1) 諮問第1号 第3期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

(2) その他

【確認事項】 傍聴及び議事録の公開について確認した。

議事録署名人として、谷本委員が指名された。

(事務局) (前回審議会からの修正説明及び各章の施策、KPIについて説明)

(事務局) 大阪府より修正分の戦略について意見を頂戴している。

戦略案28ページ、新たな視点のデジタル技術の活用という部分について、

「新たな視点としてデジタル技術の活用と記載されているが、計画全体に係るものであり、全ての基本目標の方針や主な施策に反映されるべきものであると考える。しかし、電子申請の活用や健康増進アプリなどの記載があるものの、電子申請については触れられていない。少なくとも基本目標の方針や主な施策の中で、電子申請についても記載をしていただくほうがよいのではないか。」という意見をいただいた。

この意見に対する市の考え方として、「第2回の審議会において委員から同様の意見をいただいているが、電子申請をはじめ市内DXについては、総合戦略におけるKPI設定が困難なため、総合戦略とは別途推進していくこととしている。

なお、12月議会において、高石市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例を制定しており、令和7年4月より就学援助費の電子申請がスタートする。」

報告は以上である。

(会長) 今の大阪府からの意見について、何か質問や意見があればお願いしたいが、いかがか。

私が気になったのは、前回の審議会で大阪府にも伝えたが、デジタル田園都市構想や、新たな視点となるデジタル化とは何を目指しているのかということである。いわゆる電子通信技術のようなツールだけではなく、本来はQOLをどう高めていくか、そのために必要なことがDXということだと大阪府の方も言っていた。

何か目的があって、その目的のためにこういうことをやりましょう、その一つとして電子申請しますということが分かるような記載がいいと思う。

全ての基本目標の方針や主な施策に反映されるべきものであると考えると言っているが、恐らくそれは、デジタル技術の活用に記載があるだけで施策やKPIには記載がないという指摘だと思うので、そのような理解をいただいたほうがよいかと思っている。今の事務局の説明のように、これは別途で進められていることなので、総合戦略の中には入れないという市の回答だと理解をしている。以前も申し上げた

が、末端の部分のアプリなどだけがピックアップされてしまい、それを何のためにやるのかというところがなかなか見えてこないところがあるので、ぜひそのようなところは頭に置いていただいて、今後、計画づくりをしていただいたらよいと思う。

それでは、まず、基本目標 1 及び 2 の個別事業について、事務局からの説明を踏まえた上で、さらに意見等があればお願いしたい。

(委員) 資料の 28 ページに地域間・広域連携の記述があるが、まさに今必要なことかと思うが、一つの市ではなかなか対応できないので、広域的な連携で必要な機能や施設を配置すべきというのは、そのとおりだと思う。

その必要な計画をつくるべきと考えるが、今、国の制度では立地適正化計画というコンパクトなまちづくりを進めるのにそのような制度で推進しようとしているが、これも市町ごとでつくるようになっている。しかし、このような連携した地域で、もう少し広い立地適正化のビジョンをつくる必要があると思うが、こういう動きが今後あるのか、その辺りを伺いたい。周辺の市町と共通のビジョンを策定するのかどうか。

(事務局) まず、この広域連携というところでいくと、高石市は、現在、隣の泉大津市、忠岡町と 2 市 1 町の連携協定を令和 5 年度に締結させていただいている。資料に記載のとおり、広報誌や福祉バスについて連携を始めているところである。それ以外の分野でも例えば消費生活センターなどについての勉強会もしている。いわゆる個々のソフト事業であるとか、そういった部分の連携の取組は始めてはいるものの、いわゆる立地適正化とか、インフラ関係のところは、まだこれからの研究課題なのかなというのが現状である。

過去、堺市、高石市、泉大津市、忠岡市、和泉市と平成 28 年、29 年にかけて、立地適正化の広域化の方針を市町共同で策定したが、そのときは、鉄道沿線を軸にした公共施設の現状分析で、その築年数や利用稼働率などについて共通の認識を持った。今後、どこの市町も施設の維持管理が非常に厳しくなってくる、その更新時期において、それぞれの連携の下に同じような施設を共通で使えるのか、例えば広域化で集約していくかなどは検討していかなければならない。鉄道沿線を軸に検討していくという一つの考え方の共通認識を持とうということは、その際に策定したので、今後各々の市町の抱える施設の状況によっては、もう一步、二歩この協議が必要になってくるものと認識している。また、今年度は、国交省の進められる群マ

ネという公共交通のインフラ、下水、公園、道路等の管理について、泉州地域で国の補助金いただいて研究を始めた年でもあるので、今後引き続き、泉州全体のなかで、もう少し具体的に協議していくのかというのは今後の課題である。

(委員) 非常に大事なのは、都市機能をどこに誘導して集約させるかということで、もう少し広い範囲での機能の集積のようなことについての議論が要ると思う。

(会長) 広域の中で高石市の占める立ち位置を、特にどういうところに対してその役割を果たすのかを考えた上で戦略をつくってほしいと申し上げていた。前から申し上げているように、特に子育てに関しては、高石が中心的な役割を果たすような位置にあるのではないかと思うので、そこをもっと重点的にしていっていいのではないかと思う。

先ほどの立地適正化の鉄道沿線型の話は前に聞いていたが、今説明いただいたようなことで、少しずつ前に進んではいるように思う。昔は、人口を増加させるといつていたが、ようやく国もきちんとその辺のところは見定めて、人口をどうしていくのかということを考えなさいということで、新たな人口ビジョンを出すようになったと思う。ひとつの市だけで全て賄えるような都市づくりはなかなか難しいので、今、指摘いただいたように、また、ここで議論されているような方向を念頭に置いて、計画づくりをしていただければよいと思う。

他にいかがか。前にK P Iの数値等の根拠について示して欲しいとお願いしていたが、それについても資料をつけていただいている。基本目標3、4も含めて、何か意見があればお願いしたい。

皆さんに考えていただく間に、プロジェクトチームに質問するが、そもそも関係課が集まってそれぞれの意見を戦わせたうえで、一定の方向性を取りまとめるといったことになるかと思う。何を目標にしてどういうプロセスで、どういう議論をして取りまとめたのかということについてお聞かせ願いたい。

(事務局) 人口減少に対してこれから日本全体でどうしていくのかという中で、市として何ができるのか。人口減少は止められないであろうところから、前の総合戦略でも人口ビジョンを見直すところから始めて、今後何が必要なのか、どういうK P Iを設定しないといけないかということをお話し合ってきたところである。

人口減少に歯止めをかける施策として何があるかということを中心に考えながら

話を進めてきた。

(会 長) プロジェクトチームが会議を9回も重ねて、作っていただいた計画であり、プロジェクトチームあつての計画だというように紹介いただいたので、プロジェクトチームとしての方針だとか、そういうことについて聞きたかった。

皆さんが質問いただいたことに対しては、十分回答いただいているという理解でよろしいか。本日改めて意見がなければ、今の形でパブリックコメントにかけていただくということになるが、いかがか。パブリックコメントの開始時期との関係もあるが、もし今、意見はないが、後で読み直して、気になったところがあるときは、いつまでに意見を出せば反映をしていただくことができるか。

(事務局) 現在の予定として、パブリックコメントは12月24日から1か月間実施させていただくので、12月23日までに連絡いただければ、反映させていただく。

(会 長) 今、事務局から説明があつたとおり、後日意見があつた場合は、事務局に連絡をしていただくということよろしいか。

この総合戦略に関しては、専門の委員の方々からも色々指摘をいただき、事務局も調整等大変なことがあつたと思うが、真摯に対応していただき、こういう案にまとめられたというところなので、市民の方々にも十分周知し、意見をいただけたらよいかと思う。

最後に、本来、総合戦略というのは、その戦略に定められている目標を達成するための施策、あるいは事業が最優先されるべきだと考える。それに沿って担当課は、予算をしっかりと獲得をしていただく義務がある。そうでないと総合戦略が前に進まないということになるので、意義や目的・役割などを、まちづくり全体の中で明確に位置づけできるようにしておいていただきたい。そうしてこそ、それぞれの事業が円滑に進められ、そこに定めてある目標が達成でき、基本目標の達成に近づけるということだと思う。

それからもう一つ、今回KPIの根拠については、この目標達成のための施策、事業があつて、それがどうなったら目標が達成できるのか、あるいは目標に近づけるのかという点に意味があるはずである。そういう意味でしっかり根拠をもってお願いしていきたい。それがある程度達成できたら、例えば目標値が5年後に達成できたとしたら、その後、その事業そのものを継続するかどうかは別として、本来は目

標達成のための次の施策、事業を検討して導入するべきだと思う。K P Iだけをちょっとずつ変えていくということは、総合戦略にふさわしくないと思う。そういう位置づけだということになるので、そのK P Iが持つ意味がすごく重いと思う。こういうことを達成するためにこの数値を設けていて、これがクリアされたら次の事業に移るといような方向で次の事業も検討していただきたいと思う。

特に意見がなければ、各委員から何か最後に一言お願いする。

(委 員) 先ほど会長も言われたように、特に若手の方が今回加わってつくられたということで、私の関心としては、若手に任せたからこんなに違う発想が出てきたみたいなのがあるなら聞いてみたいと思う。人口流出ではなくて、本当に若い人が高石市に残ってもらう、特に子どもに関しては増えてもらわないといけないので、その意味では、若い職員の発想やその実感など、そのようものも生かして進めていただいたらよいと思う。

(委 員) 私も同じく、若い人でこれだけのことをやっていただいたことを今日初めて聞いたので、そのことを含め、今後のK P I、まだ設定されてない部分もあるが、そのあたりについては、先輩方にも支えていただいて頑張っていたらと思う。

(委 員) 特にふるさと納税の目標値については、高く評価していて、若い人たちが本当に一丸となってやっていただくような気概を感じるし、職員だけでなく、我々市民も、それからもちろん市議員の方々も、このようなものを一つのノルマとして取りかかっているような目標づくりができたと思うので、非常に評価している。また、今後とも若い人たちの力を結集して頑張っていたらと思う。

(委 員) ちょっと違う視点だが、いろんなところで子どもが一日過ごせるような施設が要るということを常に感じている。このウェルカムステーションみたいな施設を増やしてもらうことで、子どもを育てやすい環境ができると思う。

(会 長) 本日まとめていただいた案について、もし意見があれば今週中にいただくことになるが、これは各委員にお願いだが、もし意見をいただいたり、あるいは修正すべきところが出てきたりした場合には、重要なところについては意見をいただかないといけないが、文書の修正等については、会長、事務局に一任いただくということよろしいか。

(異 議 な し の 声)

(事務局) 12月24日から1月24日までパブリックコメントを実施させていただく。その後のスケジュールについては、パブリックコメントでいただいた意見と、それに対する市の考え方を次回の審議会までに各委員に提示させていただきたいと思っている。

【午後5時閉会】